

第7章 推進プログラム

第7章 推進プログラム

1 推進プログラム

推進プログラムは、「第4次札幌市みどりの基本計画」の実現のため、優先的に取り組む施策について、取組手法や手順を示すことで施策の具体化を推進する実行計画です。今後、施策の取り組み状況に応じて項目は追加していく予定です。

※前期は令和2年から令和6年、後期は令和7年から令和11年を想定しています。

自然

施策の方向性	取組内容	取組スケジュール			
		前期		後期	
		R2	R6	R7	R11
方向性1 持続的な森林 保全・活用	○森林の保全推進 ・公有化した森林の間伐等（真駒内地区、有明地区等） ・森林の公有化の実施（南沢地区、澄川地区等）	間伐（継続）			
		用地取得（継続）			
	○都市環境林の利活用の推進 ・森林の機能や特性に応じた管理計画の策定。 ・人工林の間伐の実施	調査	検討	策定	
		継続			
○多様化する自然歩道などの利用者への対応 ・市民の森、自然歩道の利用実態調査			調査	整備	
方向性2 生物多様性に 配慮したみどりの保全	○生物多様性に配慮したみどりの保全と創出 ・特定外来生物の関係法令に基づく適切な処理など、公園緑地などの整備、維持管理における生物多様性の保全に向けた適切な維持管理 ・モニタリングなどによる基礎的な情報収集と共有化	検討		実施	
		検討		実施	
方向性3 みどり資源の 有効活用	○市有施設における木材利用の促進 ・小学校等での導入。	普及啓発			
		小学校等の整備			
	○落ち葉の堆肥化 ・各土木センターや公園で落ち葉の堆肥化に取り組みます。	継続			
		○伐採木・剪定枝などの有効活用 ・各土木センターや指定管理者の管理する公園で剪定枝を配布します。 ・バイオマス燃料・マルチング材の利用	継続		
	継続				
方向性4 北東部の平地のみどりの保全	○農地の保全と活用 ・市民農園や体験農園など、地域の実状にあった農的活用を促進します。	継続			

施策の方向性	取組内容	取組スケジュール			
		前期		後期	
		R2	R6	R7	R11
方向性9 ニーズに応じた安全・安心な公園の再整備	○身近な公園の再整備 ・造成後 30 年以上経過した公園について地域ニーズを反映して再整備を実施	継続			
	○大規模公園の再整備 ・農試公園の再整備 ・屯田西公園の再整備	実施設計	工事		
	○狭小公園の必要に応じた統廃合の検討 ・公園の整備、再整備に合わせて検討。	随時検討			
	○公園施設の適正化 ・公園の整備、再整備に合わせて検討。	随時検討			
	○安心・安全な公園づくり ・入り口や園路、駐車場やトイレのバリアフリー改修を実施。 ・トイレの洋式化や案内表示の整備	継続			
	○災害に強いまちづくりに資する公園づくり ・広場の確保、利用面の機能向上 ・災害時に役立つ公園のトイレ・水飲み台などの防災機能について、公園検索システムを活用した情報発信 ・他分野との連携	継続			
		整備			
		継続			
		継続			
		継続			

施策の方向性	取組内容	取組スケジュール			
		前期		後期	
		R2	R6	R7	R11
方向性10 公園の適正な 管理と活用の 推進	○民間パートナーと連携した公園の管理運営 ・市民団体の公園管理運営への参加 ・公園の利便性や魅力向上等を図るために、P-PFIの公募を実施。 ・公園のコンセプト等を事業者等と共有するためのツールとして、主要公園ごとの管理運営方針を策定。	継続			
			公募・整備・サービスの開始		
	方針の策定				
	○狭小公園の活用 ・公園の再整備に合わせて、コミュニティガーデンなど活性化を図る。	随時			
	○ICT活用 ・HPやSNSを活用した公園のみどころや魅力に関する情報発信の手法の検討と実施	内容検討	実施		継続
	○プレーパークの場の提供	継続			
	○若者の公園利用の推進	計画・整備			
	○多様な社会貢献の提供や機会の創出	継続			
	○冬季間における公園利用の推進	継続			
	○公園活性化に関する協議会の設置 ・必要に応じて検討	随時検討			
	○長寿命化計画による計画的な管理運営	継続			
	○公園樹木の健全化、適正化 ・公園樹木の現況調査を実施 ・健全化：点検や診断の結果に基づき、危険木の伐採等の実施 ・適正化：民地や道路への越境や見通しが悪く防犯上市民生活に支障を及ぼす樹木について間引きや樹種変更等を実施		既存樹木の調査		
			樹木診断・危険木の伐採等		
		支障木の伐採等			
○公園樹木の取り扱いの方針等の運用	継続				

ひと

施策の方向性	取組内容	取組スケジュール			
		前期		後期	
		R2	R6	R7	R11
方向性1-1 自然を知り・守り・つくり・活かす活動の推進	○市民団体等との連携による森づくり	継続			
	○自然観察会等の実施	継続			
	○環境教育の実施	継続			
	○さっぽろふるさとの森づくり事業 ・様々な世代の市民が気軽に参加できる育樹体験イベントを実施する。企業・団体との森づくり協定を継続する。	継続			
方向性1-2 都心をみどりで彩り楽しむ活動の推進	○花と緑の都心まちづくりネットワーク ・都心部で働く若年層にみどりに対する理解を深める講習会等の実施。	実施			
	・都心でのおもてなし緑化より多くの市民がみどりのまちづくり活動に主体的に取り組めるように検討。	継続			
方向性1-3 身近な緑化活動の推進	○緑化活動の推進	継続			
	○みどりづくり講習会の実施	継続			
	○地域緑化支援事業：歩道以外での緑化活動に取り組む市民を対象に花苗及び技術面の支援を行う。	継続			
方向性1-4 協働によるみどりづくりの仕組みの充実	○効果的な情報発信	継続			
	○イベント開催への支援	継続			
	○大学などとの連携	継続			
	○ボランティア活動の促進 ・公園・森林・タウンガーデナーなどみどりに関わるボランティアのあり方を検討し、市民が参加し易く継続できるボランティア活動推進計画の策定	策定		運用	
	・ボランティアリーダーの育成	検討		実施	
	・ボランティアネットワーク拠点の構築	検討		実施	
	○活動拠点機能の充実	検討		実施	

第8章 各主体の役割と進行管理

第8章 各主体の役割と進行管理

1 各主体の役割

(1) 市民・活動団体

市民や活動団体が自然やみどりの大切さや価値・機能を認識するとともに、札幌の緑化への取組や、公共空間・道路や河川などでの緑化活動や清掃・美化活動へ参加することが求められています。市民一人ひとりが主体的に関わることで、みどりに対する意識を上げていくことが期待されます。



町内会による街区公園の清掃活動の様子

(2) 事業者・大学など専門機関

CSR（企業の社会的責任）の観点から、環境意識の啓発、所有地の緑化、市民活動への資材や人材の提供など、地域社会に貢献していくことが求められています。加えて、都市公園の魅力づくりや農地の活用など、みどりを活用した新たな取組を展開し、地域において先進的にみどりづくりを進める役割が期待されています。

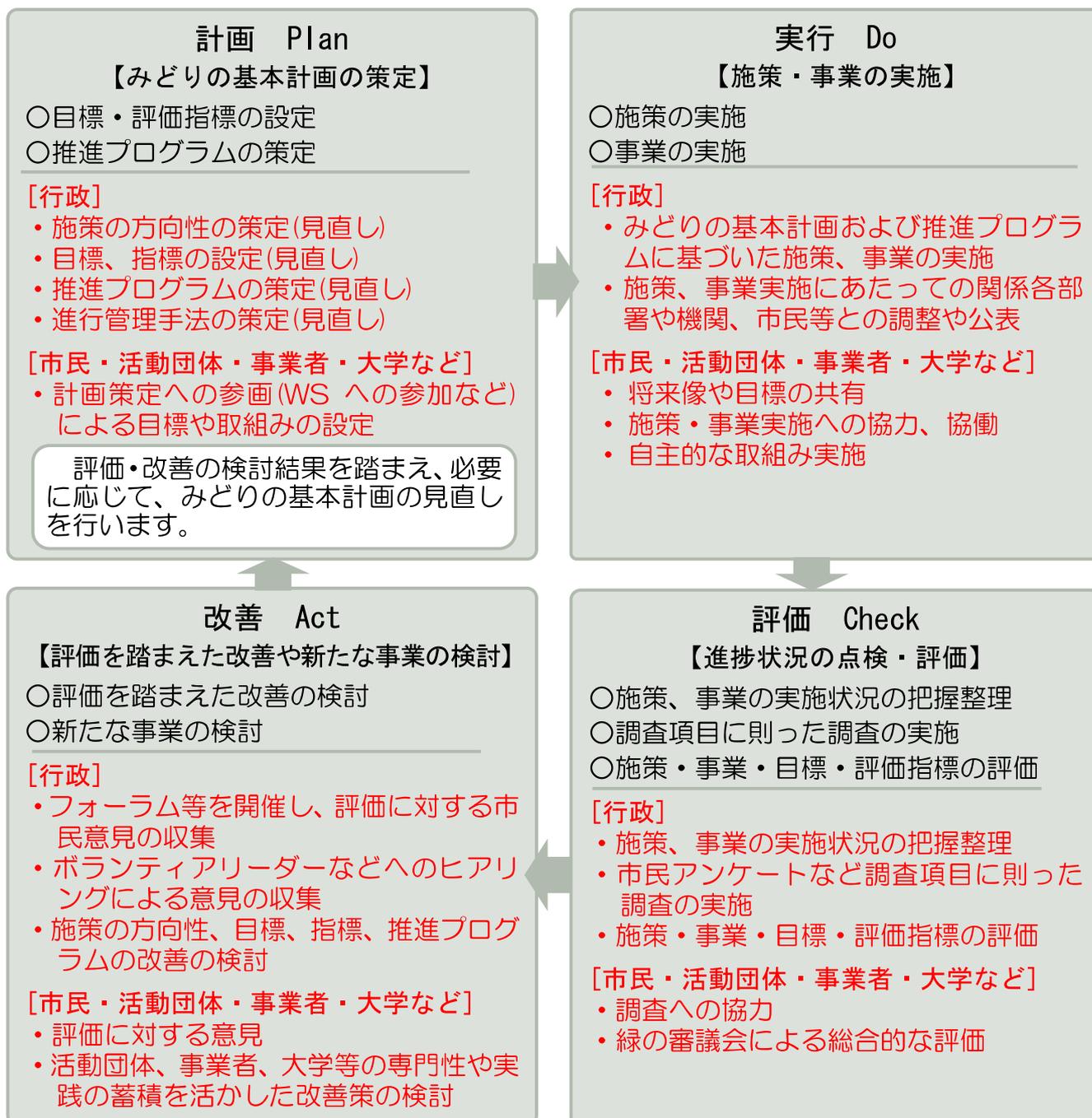
(3) 行政

市内での連携のもと、質の高いみどりづくりの計画的な推進、各資源の有効活用のために施設間の連携による相乗効果を目指していく必要があります。そのため、みどりに関する情報発信やみどりと触れ合う機会の提供など、市民や活動団体、事業者などのみどりづくりを支援しながら、緑化行政を推進していくことが求められています。

2 計画の進行管理

(1) PDCAサイクル手法※の導入

みどりの基本計画が目指すみどりの将来像の実現に向けて、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）のPDCAサイクルの考え方で順応的に計画の進行管理を行います。また、市民や活動団体、事業者、行政が一体となって計画や施策を推進していくために、積極的に情報を提供・公表し、共有を図ります。



※ PDCA サイクル：マネジメントサイクルの1つで、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（act）の順に実施し、このプロセスを繰り返すことで、業務の改善・向上などを図っていく手法。

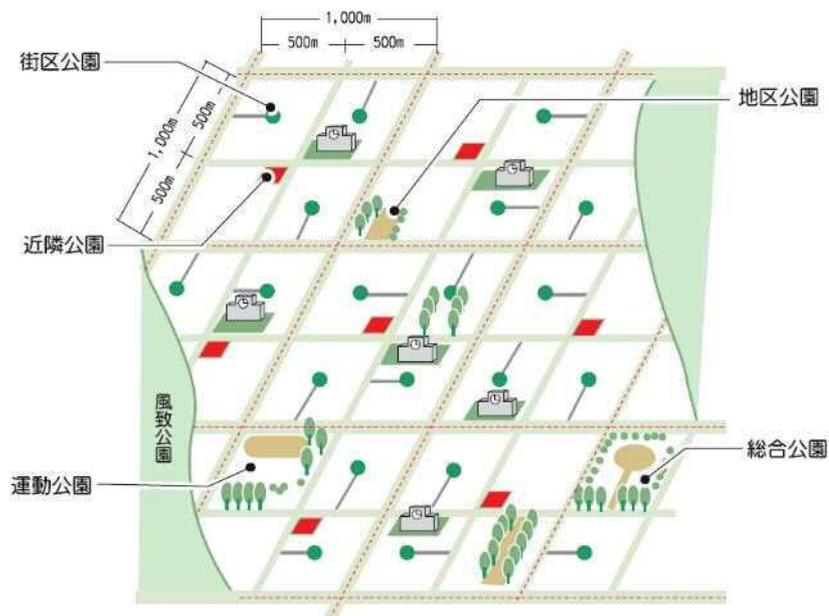
參考資料

1 札幌のみどりの現状

(1) 札幌市都市公園の種類・一覧

都市公園	基幹公園	街区公園	主に街区の住民を対象とした標準的な施設が配置された公園。250m以内の距離で行けるように配置され、標準規模は0.25ha。
		近隣公園	主に近隣の住民を対象とした標準的な施設が配置された公園。500m以内の距離で行けるように配置され、標準規模は2ha。
		地区公園	徒歩圏内の住民を対象とした公園でスポーツ施設や休憩施設が配置される。1km以内の距離で行けるように配置され、標準規模は4ha。
	都市基幹公園	総合公園	休憩や鑑賞、散歩、運動などを目的に市民が総合的に利用できる公園で、10～50haが標準的な規模である。円山公園、中島公園などがある。
		運動公園	野球場やテニスコート、陸上競技場、プールなどの運動施設が設置されている公園。標準規模は15～75haで、手稲稲積公園、厚別公園などがある。
	広場公園	主に商業地などの地域で、人々の休憩や街の景観を向上させることを目的として配置される。	
	特殊公園	自然環境や景観を守ったり、史跡や名勝、動植物に親しむための公園で風致公園や動植物園、墓園などが該当する。大通公園や札幌芸術の森などがある。	
	広域公園	主に一つの市町村を超える広域の利用を目的とした公園。自然を生かした様々な施設が設置され、標準規模は50ha以上。国営滝野すずらん丘陵公園と真駒内公園がある。	
	緩衝緑地	大気汚染や騒音、振動、悪臭などの公害や災害防止のために設置される。住居地と工業地帯、交通施設を分離することが必要な場所に設けられる。	
	都市緑地	都市の自然環境の保全や景観を向上させるために設けられる緑地で、0.1ha以上を標準としている。	
緑道	災害時の避難経路の確保や歩行者や自転車車が安心して通行するために設けられた帯状の緑地。幅員10～20mを標準として公園や学校、ショッピングセンター、駅前広場などを結ぶように配置される。		
自然緑地	森林レクリエーションの場として設けられる緑地で、市有林を活用した都市環境林と民有林を借用して開放している市民の森がある。		
その他の公共施設緑地	公園以外の一般に開放された公共施設の緑地。サッポロさとらんど、河川の緑地、北大付属植物園などがある。		

■公園の配置モデル図



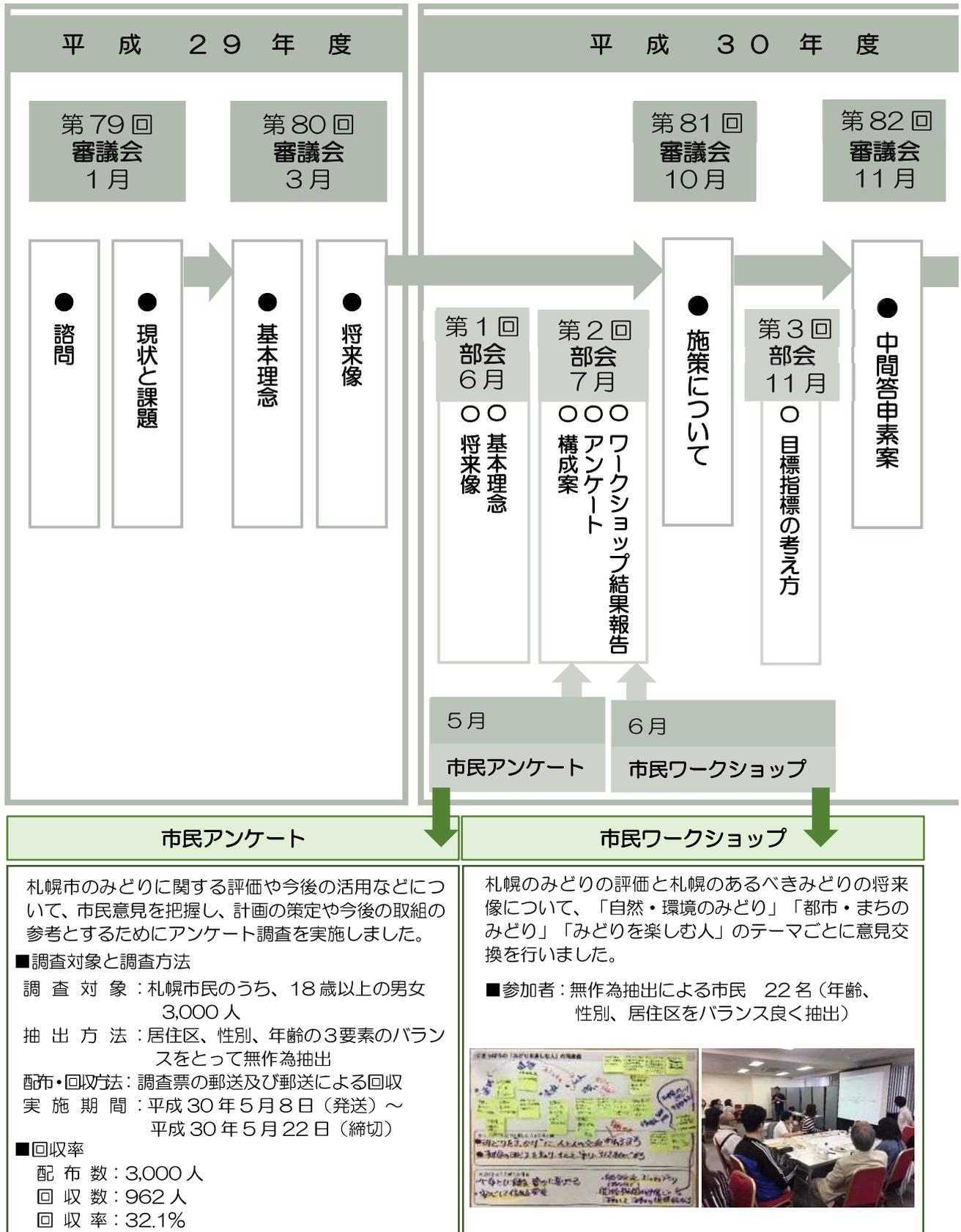
(2) 札幌市の公園緑地の種類

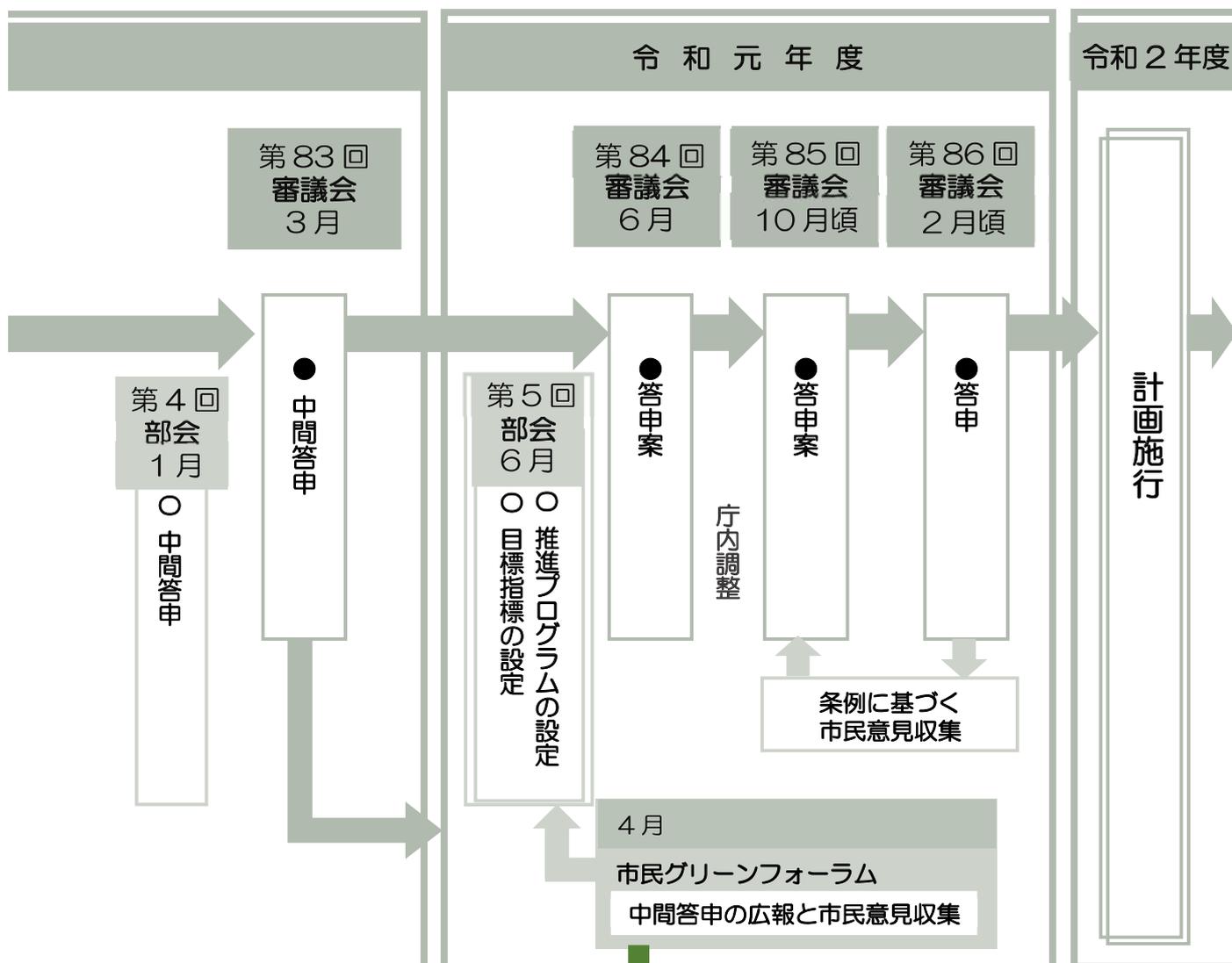
地域制緑地とは、法律や条例、要項などの制度によって、公有地、私有地を問わず良好な緑地を保全している場所を指します。札幌市では下表に示したものが指定されています。

都市計画法に基づく指定	風致地区	都市の風致を維持するために定められた地区であり、建築物の建築など風致に影響を及ぼす行為について一定の規制を設けている。
都市緑地法に基づく指定	特別緑地保全地区	良好な自然環境を形成している緑地を保全するために定められた地区であり、保全に著しく支障のある行為は禁止される。このため、損失補償、土地の買入れの制度が設けられている。
森林法に基づく指定	保安林	災害の防止や公共の福祉の増進のために定められる森林であり、伐採など森林の機能が損なわれる行為は禁止される。
札幌市緑の保全と創出に関する条例	緑保全創出地域	特別緑地保全地区に準じた良好な自然環境を保全するために定められる地域であり、保全に著しく支障のある行為は禁止される。
	市民の森	民有林所有者の協力を得ながら、借地により良好な樹林地を保全するとともに、市民に自然とのふれ合いの場を提供する。
北海道自然環境等保全条例に基づく指定	環境緑地保護地区	市街地及びその周辺地のうち、環境緑地として維持または造成することが必要な地区を指定し、土地形質の変更などを規制する。
	学術自然保護地区	動植物の生息地、地質鉱物の所在地で学術上保護することが必要な場所を指定し、植物や鉱物、火入れ、水質の汚濁を禁止する。
	自然景観保護地区	良好な自然景勝地として保護することが必要な場所を指定し、土地形質の変更などを規制する。
都市の美観風致を維持するための樹林保全に関する法律による指定	保存樹木 保存樹林	由緒・由来のある樹木や市民に親しまれている樹木について指定するものであり、所有者は枯損防止に努めなければならない。
札幌市緑の保全と創出に関する条例		
道条例記念保護樹木による指定		

2 札幌市みどりの基本計画の策定経緯

■第4次札幌市みどりの基本計画策定の進め方





市民グリーンフォーラム

中間答申を広く市民に周知してご意見をいただくとともに、今後、札幌のみどりをどのように活かして都市の魅力を高めていくかを考える機会として開催しました。

■来場者：430名

(パネル閲覧、グリーンカフェ、トークセッションの来場者数の合計)



審議会

市長が諮問する「第4次札幌市みどりの基本計画の案」の作成について、「札幌市緑の審議会」での審議とともに、専門的に調査審議するため、「緑の基本計画部会」を設置し検討を行っています。



3 市民アンケート

①市民アンケートの概要

札幌市では、市民 3,000 人を対象に、みどりの現状評価やみどりづくり活動などについて、市民意識を把握し、計画の策定や今後の取組の参考とするためにアンケート調査を実施しました。

【調査対象と調査方法】

調査対象：札幌市民のうち、18 歳以上の男女 3,000 人

抽出方法：居住区、性別、年齢の 3 要素のバランスをとって無作為抽出

配布・回収方法：調査票の郵送及び郵送による回収

実施期間：平成 30 年 5 月 8 日（発送）～平成 30 年 5 月 22 日（締切）

回収数：アンケートの回収数は 962 通であり、回収率は 32.1%となっている。

アンケートの設問概要は下記のとおりです。

1. あなた自身のことについて（平成 30 年 4 月 1 日現在）
2. 札幌のみどりについて
基本計画の認知度／札幌の風景・イメージ／札幌に不足しているみどり／
市民や企業、行政が協力して優先して取り組んでほしいこと
3. 公園について
小さな公園について／大きな公園と一緒にあると良い施設
4. 自然歩道について
利用したことのある自然歩道／自然歩道の利用目的／自然歩道の整備方針／
自然歩道の活用方法
5. 都心のみどりについて
都心の公共施設の緑化の満足度／都心の民間施設の緑化の満足度／
都心の公共・民間施設にほしいみどり／みどりを増やしてほしい都心の施設
6. 街路樹について
街路樹の大切なはたらき／住まい近くの街路樹の有無／
街路樹に関する取組みへの印象について
7. みどりのボランティアについて
ボランティアへの参加の有無／参加のきっかけになりそうなこと／
参加したいボランティア活動／参加したいボランティア活動の場所／
ボランティア活動に期待すること

その他 自由記述

②市民アンケートの結果

= 札幌のみどりについて =

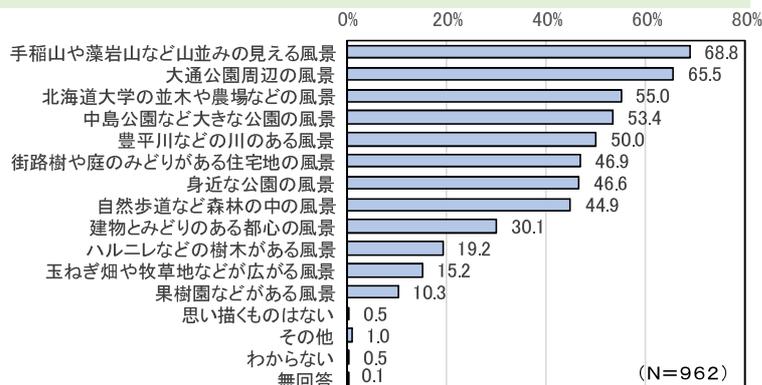
問2-2 札幌の原風景として思い描くものは、どのようなものか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

「**山並みの見える風景**」が約69%と最も多く、次いで「**大通公園周辺の風景**」が66%であった。

【居住区別の傾向】

中央区では「中島公園などの大きな公園の風景」、白石区・豊平区では「豊平川など川のある風景」、北区では「北海道大学の並木や農場などの風景」が多く、**居住区内もしくは近隣のみどりを原風景として思い描いている傾向**が見られた。



問2-3 札幌のみどりに関する現状で、何が不足していると思うか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

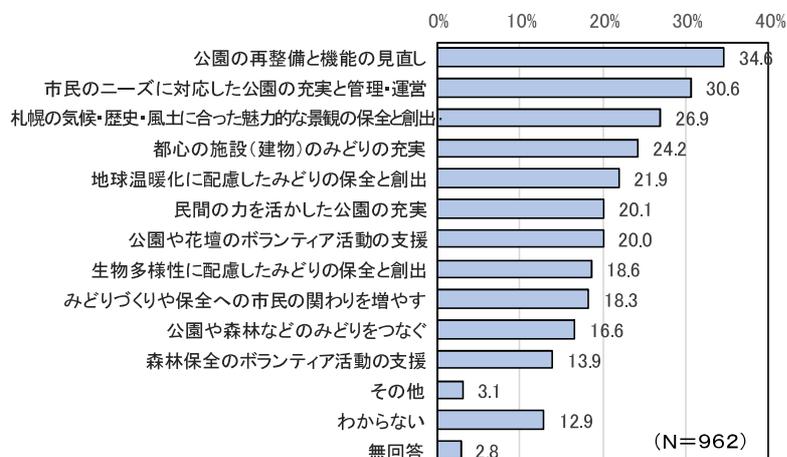
「**公園の再整備と機能の見直し**」が約35%で最も多く、次いで「**市民ニーズに対応した公園の充実と管理・運営**」が約30%であった。

【年代別の傾向】

上位3位はおおよそ全体と同様の傾向を示したが、**10～40代は「都心の施設（建物）のみどりの充実」、80代ではボランティアに関する回答**が上位となった。

【子育て世帯】

「**民間の活力を活かした公園の充実**」が上位となった。



問2-4 みどりをつくるために優先して取り組んでほしいことは何か（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

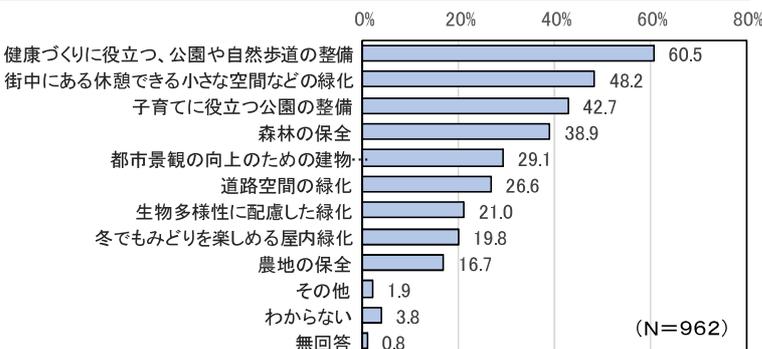
「**健康づくりに役立つ、公園や自然歩道の整備**」が約60%で最も多く、次いで「**休憩できる小さな空間などの緑化**」が約48%、「**子育てに役立つ公園の整備**」約43%であった。

【年代別の傾向】

50、60代では他の年代よりも「**森林の保全**」の要望が多くあった。

【子育ての有無別の傾向】

子育て世帯は全体と同様の傾向であったが、子育て世帯以外は、「**森林の保全**」が上位となった。

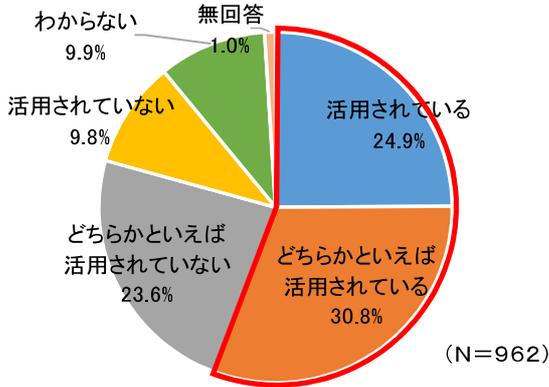


= 公園について =

問3-1 (1) 自宅近くの小さな公園は普段から活用されていると思うか (あてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】

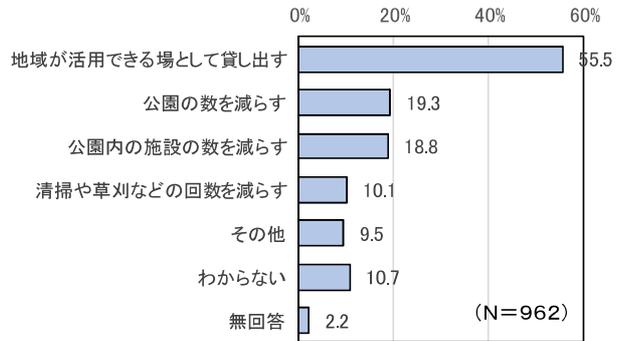
「活用されている」「どちらかといえば活用されている」を合わせると**約56%が活用されている**との回答であった。



問3-1 (2) 今後の小さな公園のあり方はどうなっていくと良いと思うか。(あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

「**地域が活用できる場として貸し出す**」が約56%でもっとも多かった。



問3-1 (3) 地域が活用できる場として貸し出す場合、どのようなことに利用したいか。(あてはまるもの全てに○)

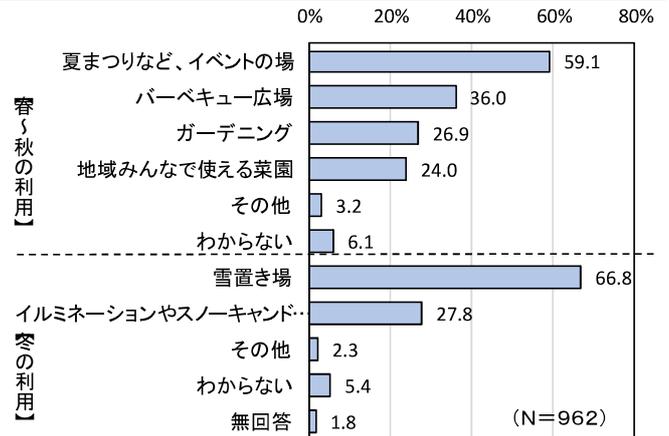
【全体の傾向】

夏～秋の利用では、「夏まつりなどのイベントの場」、冬の利用では「雪置き場」が多かった。

【年代別の傾向】

夏～秋の利用「バーベキュー広場」は、年代が低くなるにつれて要望が多くなった。10～30代では半数以上の回答であった。

30、40代の冬の利用は「雪置き場」が80%程度回答され、他の世代に比べニーズが高かった。



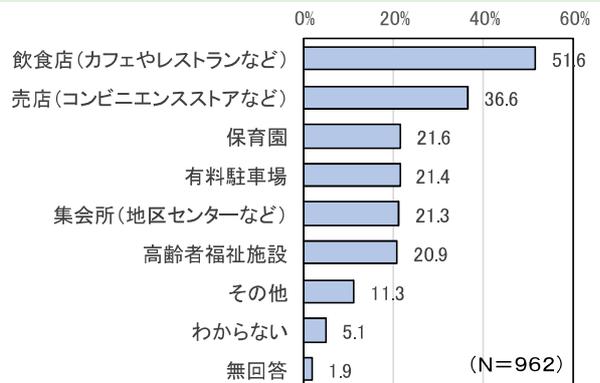
問3-2 札幌市の大きな公園 (約300坪 (約1,000㎡) 以上) と一緒にあると良いと思う施設は何か(あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

「**飲食店**」は約52%、「**売店**」は約37%で**要望が多**くあった。「保育園」「有料駐車場」「集会所」「高齢者福祉施設」は20%程度であった。

【年代別の傾向】

10～70代では上位2位は、全体と同様の傾向となった。3位となったものは、20～40代では「保育所」、50～60代では「有料駐車場」60、70代では「高齢者福祉施設」で、**各年代のライフスタイルに関わりの大きいものが選ばれる傾向**にあった。



= 自然歩道について =

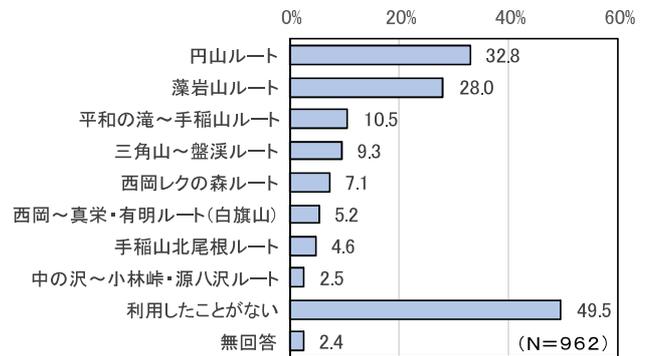
問4-1 (1) 利用したことのある自然歩道はどれか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

利用経験の有無は、ほぼ半数に分かれた。利用したことのあるルートとしては、「円山」が約33%でもっとも多く、次いで「藻岩山」が約28%であった。小学校等の遠足などで利用されているルートが多い結果となった。

【居住区別の集計】

中央区では「円山」、南区では「藻岩山」、西区では「三角山～盤渓」、手稲区では「手稲山北尾根」「平和の滝～手稲山」が他の区に比べ多く、居住区内もしくは近隣の自然歩道を利用している傾向が見られた。



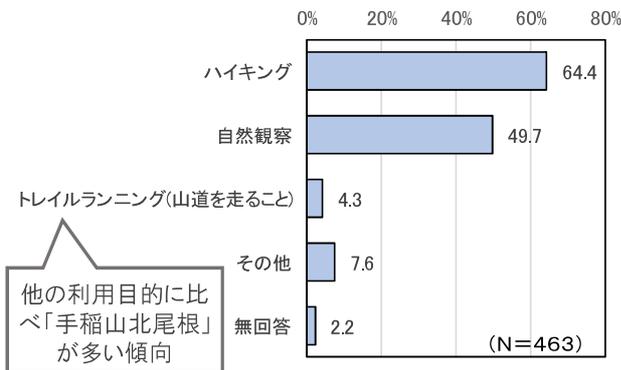
問4-1 (2) 自然歩道をどのように利用しているか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

「ハイキング」が約64%で、「自然観察」が約50%であった。

【年代別の傾向】

20代、60～80代以上では「自然観察」が50%以上で他の年代よりも多かった。



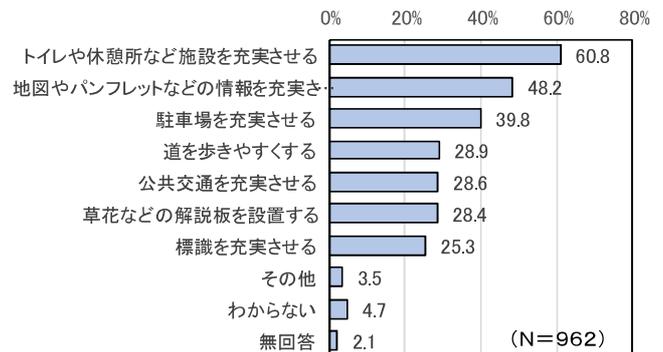
問4-1 (3) 自然歩道をどのようにすると使いやすいと思うか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

「トイレや休憩所などの施設の充実」が約61%、次いで「地図やパンフレットなどの情報の充実」が約48%であった。

【子育ての有無別の傾向】

子育て世帯では、「駐車場の充実」が子育て世帯以外に比べニーズが高かった。



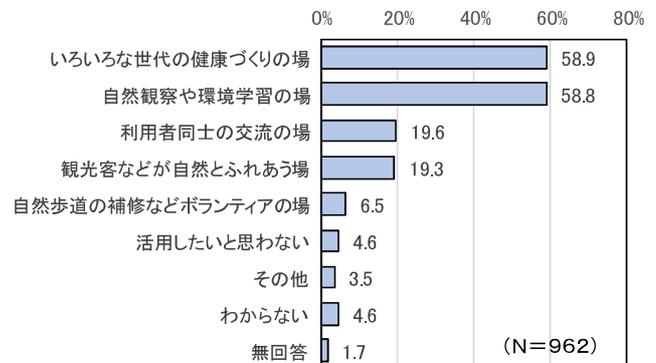
問4-1 (4) 自然歩道をどのように活用したいか (あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】

「健康づくりの場」「自然観察や環境学習の場」が60%程度で高いニーズがあった。「利用者同士の交流の場」や「観光客などが自然と触れ合う場」は20%程度であった。

【年代別の傾向】

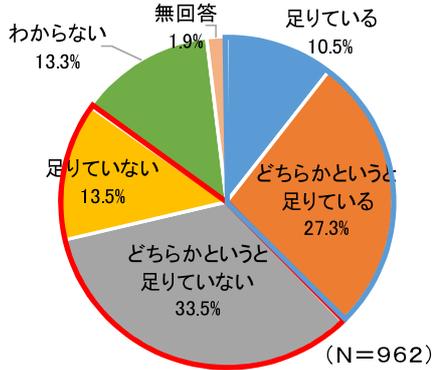
「健康づくりの場」「自然観察や環境学習の場」はすべての年代で上位となった。10～30代では、「観光客などが自然と触れ合う場」、60～80代以上では、「利用者同士の交流の場」が多かった。



= 都心のみどりについて =

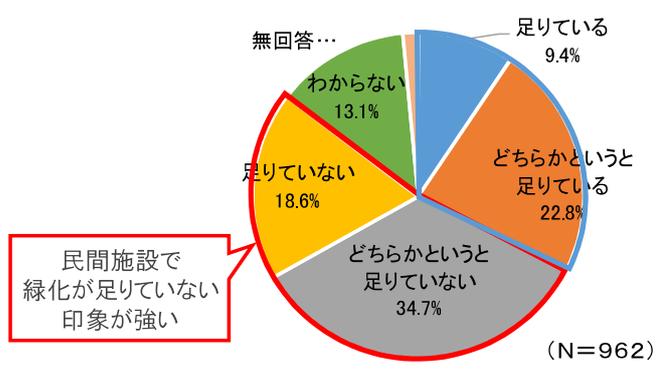
問5-1 (1) 都心の公共施設の緑化は足りていると思うか(あてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】
「足りている」「どちらかという足りている」の合計は約38%、「足りていない」「どちらかという足りていない」の合計は約47%であった。



問5-1 (2) 都心の民間施設の緑化は足りていると思うか(あてはまるもの1つに○)

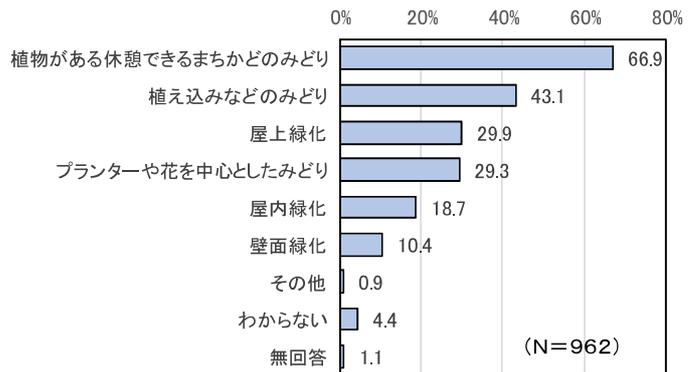
【全体の傾向】
「足りている」「どちらかという足りている」の合計は約32%、「足りていない」「どちらかという足りていない」の合計は約53%であった。



問5-1 (3) 都心の公共及び民間施設にどのようなみどりがあるとよいと思うか(あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
「休憩できるまちかどのみどり」は約67%で最も多く、次いで「植え込みなどのみどり」は約43%であった。

【年代別の傾向】
30~50代では、「屋上緑化」が40%程度で、他の年代に比べニーズが高かった。



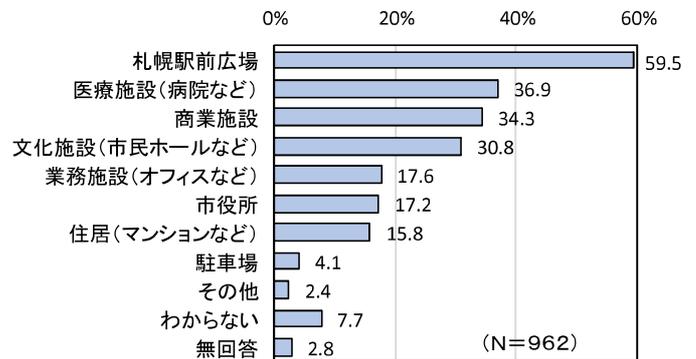
問5-1 (4) 都心のどのような施設にみどりを増やしてほしいか(あてはまるもの全てに○)

【全体の傾向】
「札幌駅前広場」への回答が約60%と最も多かった。「医療施設」「商業施設」「文化施設」は30~40%程度であった。

【年代別の傾向】
10代では、「札幌駅前広場」が約86%で突出して高かった。

20~50代では「商業施設」(40%程度)、50~80代以上では「文化施設」(30~40%程度)が他の年代に比べニーズが高かった。

普段利用する機会の多い施設に対するニーズが大きい傾向が見られた。

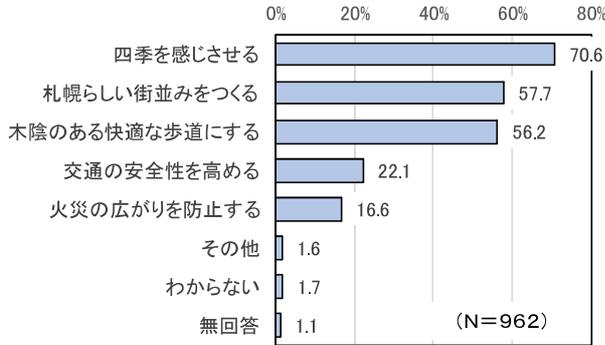


= 街路樹について =

問6-1 利用した街路樹の“はたらき”としてどれが大切だと思うか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

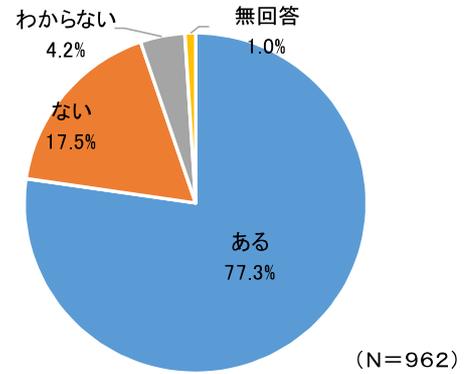
「四季を感じさせる」が約71%で最も多かった。「札幌らしい街並みをつくる」や「木陰のある快適な歩道にする」は60%弱の回答があった。



問6-2 住まいの近くに街路樹はあるか（あてはまるもの1つに○）

【全体の傾向】

「ある」との回答は約77%であった。

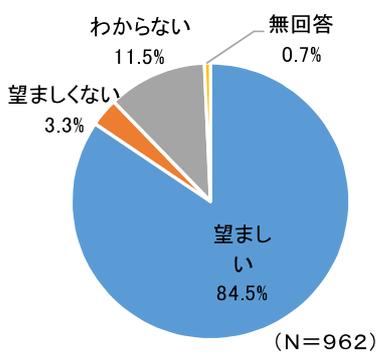


問6-3 札幌市の街路樹に関する取組について、どう思うか（あてはまるもの1つに○）

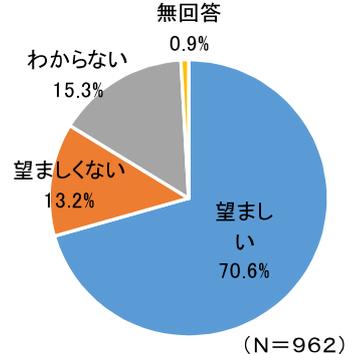
【全体の傾向】

すべての取組において「望ましい」との回答が70%以上と多くあった。特に「札幌の気候に適した種類に替えていく取組み」は約85%が「望ましい」との回答があった。

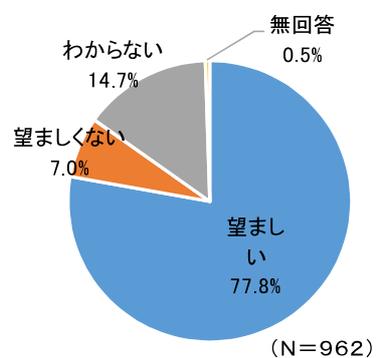
街路樹を札幌の気候に適した種類に替えていく取組み



狭い歩道の歩行や除雪に支障のある街路樹を撤去する取組み



多くの市民や観光客が目にする都心部の街路樹を、大きく育てる取組み



= みどりのボランティアについて =

問7-1 みどりのボランティアに参加したことがあるか（あてはまるもの1つに○）

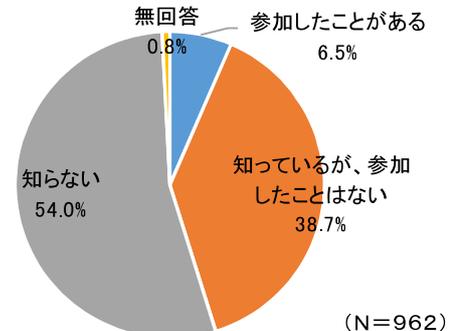
【全体の傾向】

活動自体を「知らない」との回答が約54%で半数以上となった。「知っているが参加したことがない」は約39%、「参加したことがある」は約7%であった。

【年代別の傾向】

10～50代では「知らない」が多く、年代が低くなるにつれて割合が多くなった。10代では90%以上が「知らない」と回答した。

60～80代以上では「知っているが、参加したことがない」の割合が多かった。



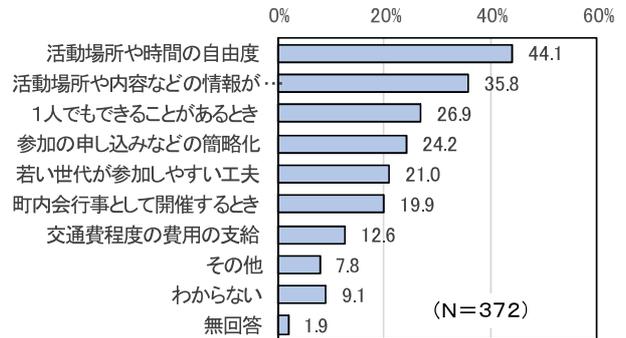
問7-2 何があれば（また、どのようなときに）参加したいか（あてはまるもの全てに○）
 ※問7-1の「知っているが参加したことがない」の回答者のみ

【全体の傾向】

「活動場所や時間の自由度」が約44%で最も多く、次いで「活動場所や内容などの情報が手に入る」が約39%であった。

【年代別の傾向】

10～40代では「若い世代が参加しやすい工夫」「1人でもできることがあるとき」が多かった。50～60代では「参加の申込などの簡略化」、70～80代以上では「町内会行事として開催するとき」が多かった。20代、40代では「交通費程度の費用の支給」が30%程度と他の年代に比べ多かった。



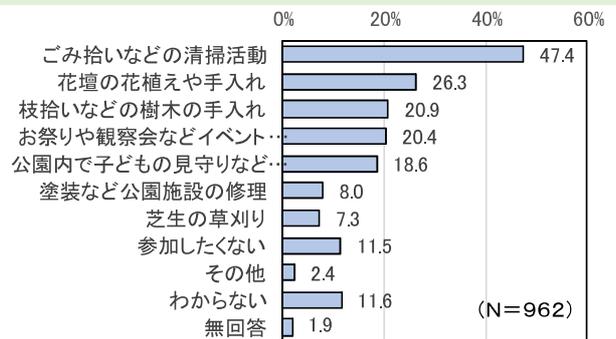
問7-3 今後、どのような活動に参加したいか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

「清掃活動」が約47%で最も多く、次いで「花植えや手入れ」が約26%であった。「樹木の手入れ」「イベントのお手伝い」は20%程度であった。

【年代別の傾向】

10～30代では「イベントのお手伝い」が多く、年代が低いほど割合が大きかった。



問7-4 どのような場所でボランティア活動に参加したいか（あてはまるもの全てに○）

【全体の傾向】

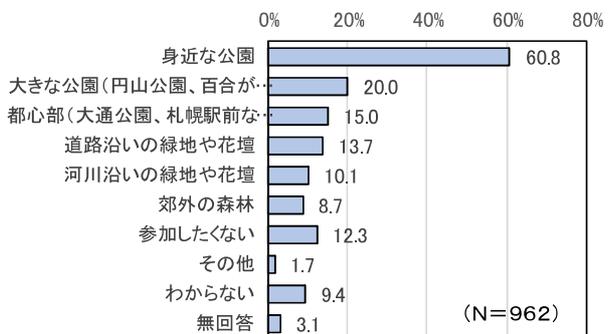
「身近な公園」が約60%で突出して多く、次いで「大きな公園」「都心部」との回答が多かった。

【年代別の傾向】

10～30代では「大きな公園」「都心部」のニーズが他の年代に比べ多く、60～70代では「道路沿いの緑地や花壇」が他の年代に比べ多かった。

【子育ての有無別の傾向】

子育て世帯では、「身近な公園」の割合が高く、子どもの年齢が低い世帯ほど、その割合が大きくなった。



問7-5 ボランティア活動に参加する際、何を期待するか（あてはまるもの全てに○）

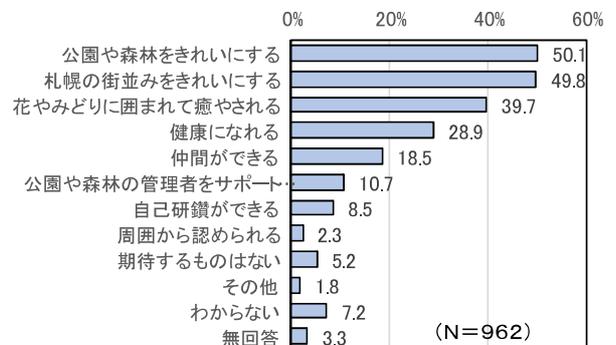
【全体の傾向】

「公園や森林をきれいにする」「札幌の街並みをきれいにする」が約50%で多く、次いで「花やみどりに囲まれて癒される」(約40%)「健康になれる」(約29%)であった。

「自己研鑽」や「周囲から認められる」は10%以下であった。

【年代別の傾向】

「健康になれる」は、年代が高くなるにつれて割合が大きくなり、80歳以上では約43%と他の年代に比べ多かった。



4 市民ワークショップ

①市民ワークショップの概要

市民ワークショップは、「第4次札幌市みどりの基本計画」を策定するにあたり、市民の意見を積極的に取り入れるため、「市民ワークショップ」を開催しました。

【開催概要】

日時：平成30年6月23日（土）13:00～16:00

場所：TKP 札幌ビジネスセンター カンファレンスルーム 5B

（札幌市中央区北3条西3丁目1-44 ヒューリック札幌ビル5階）

参加者：無作為抽出による市民 22名（年齢、性別、居住区をバランス良く抽出）

審議会委員 2名（愛甲会長、竹澤委員）

事務局 札幌市建設局みどりの推進部 4名、株式会社KITABA 8名

市民ワークショップは以下の流れで実施しました。

■札幌のみどりについての情報提供

ワークショップ開催の背景と目的について説明したのち、札幌のみどりづくりの歩み、札幌のみどりの現状と課題について説明を行った。

話し合いのテーマとなる「自然・環境のみどり」「都市・まちのみどり」「みどりを楽しむ人」については、市民アンケートの結果なども交えながら、札幌のみどりの現状を深く掘り下げて情報提供した。



■3つのグループに分かれて意見交換

STEP1の話し合いは、3つのテーブルに分かれて、「自然・環境のみどり」「都市・まちのみどり」「みどりを楽しむ人」のテーマごとにその現状について、プラスのイメージか、マイナスのイメージか評価し、シール投票によりイメージの可視化を行った。

続いて、その理由を問いながら、みどりによって助かっていること、為になっていることについて意見交換を行った。



■グループの意見を全体で共有

STEP2の話し合いは、各テーブルでの意見交換を参考にしながら、テーマごとの将来像について意見交換を行った。

他のテーブルで話し合われた内容を踏まえながら、各テーマのみどりの将来像がどのような姿になっていくか、またそれによりどのような新たな価値が生まれるのか、について意見交換し、将来像についてのまとめを行った。



②市民ワークショップの結果

ア 自然・環境のみどり

- | | |
|----------|--|
| プラスイメージ | <ul style="list-style-type: none">○<u>山などみどりのある景色がきれい</u>で、札幌に戻るとみどりの良さを感じる。○紅葉など、<u>四季を感じる</u>。○まちなかや<u>身近に自然やみどりがある</u>。○木陰ができるみどりがある。○郊外公園などみどりが多く、南区のラベンダー畑、円山公園、手稲山、西野などはみどりが多い。○藻岩山など、古来の在来種が存在する一方で外来種もある。 |
| マイナスイメージ | <ul style="list-style-type: none">○まちなかのみどりが少なく、農地など、<u>どんどんみどりが減っていて</u>、みどりにくい都市構造になっている。○<u>地域によってみどりの量の偏りがある</u>。○<u>自然災害や野生生物（カラス、熊など）などとの共生が難しい</u>。○外来種などが存在する。○人によっては、花粉症などのアレルギーが発症する時期があり、暮らしにくい時もある。 |

■助かっていること、ためになっていること

- 身近に自然があることで札幌らしさを感じる。
- 円山公園などは、子どもや生涯学習などの教育の場やツールになる。
- みどりは動物の生息地になっていて、身近に感じることができる。
- みどりは食物連鎖のベースとなり、生き物や人間の基盤になっている。
- 冬の美しい景色をつくることにつながっている。
- 二酸化炭素削減、大気の浄化につながる。
- みどりは目の保養（札幌はまだまだ足りない）にもなり、虫の声などは癒やされ、健康になる。
- みどりは食にもつながる。

■将来像

- 四季の変化や在来種が札幌らしさを生むみどりの保全と活用をすすめる。
- 子どもから高齢者まで多世代が学べる場にする。
- 市民の視点、観光客の視点で守り育てる自然・環境のみどり。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・住宅地に住民が主体に花植えやみどりづくりが出来る公園を。・きれいな河川、川のみどりづくりの見直しを。・都市部の新築ビルなどは緑化を進める基準を上げ、札幌らしさを生み出し観光にもつなげる。・減っている農地を活かすため、個人の農地を保存して市民農園などに活用する。・都会でありながら自然に近いので、観光に来た人や子ども達の教育に活かし、環境の良い都市を目指す。・在来種の花や樹木で札幌らしさを生み、ボランティア活動への参加などを通して子どもに教育する。 | <ul style="list-style-type: none">・地名の由来までの教育をする。（例「発寒」など）・ガーデニング技術など、みどりづくりに関する幅広い教育の場と、広報の充実を図る。・便利さだけではなく、不便な自然も受け入れるような市民意識が芽生えたら良い。・観光のためだけでなく、住んでいる人が気持ち良くなるようにする。・様々な人がみどりに触れる場(ボランティアなど)をつくることで癒しの効果を期待。・街路樹などの適正な樹種選定で、人との共生(植物アレルギー対応)、適性な管理(引き算の管理)を行う。・カラスやクマやシカ、虫とも仲良く暮らす。 |
|--|---|

■大切だと考える新たな価値

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">○<u>自然と人の共生</u>。○みどりは食にもつながる。○みどりは目の保養、<u>癒やされ、健康になる</u>。 | <ul style="list-style-type: none">○<u>生物多様性のスペース</u>。○<u>憩いの場、集いの場</u>。○<u>札幌らしさを観光にもつなげる</u>。 |
|---|--|

イ 都市・まちのみどり

プ ラ ス イ メ ー ジ

- まちなかに大きな芝生、大通公園などのみどりがあり、身近に花やみどりが感じられる。
- 大通公園の花がきれい。
- 大通公園は大きい木があり、市民でも観光気分を楽しめる。道外の来訪者など、他人に教えたいところがある。
- JRタワーなどから見えるみどりの景色がきれい。
- 住宅地の植樹帯にラベンダーなど植えるなど個人のみどり・花づくりがある。
- 玄関先や家の周りなどに花を植えているため、身近なみどりがきれい。
- 居住地など、暮らしと自然が近く、中島公園など自然に触れられる公園がまちなかや身近にあるのが良い。
- 夏場の木陰をつくる街路樹が多くて良い。もっとあっても良い。

マ イ ナ ス イ メ ー ジ

- 都心部のみどりが少なく、心がさびれてしまう。
- 民間施設の緑化など、都市とみどりの共存が必要。
- 住宅のみどりが減っている。
- 庭やベランダにみどりを増やす情報発信を。
- 都心の樹木のバランスが悪い。
- 倒木の危険があるなど、街路樹や民地のみどりの維持管理が行き届いていない。(強剪定含む)
- 風格のある並木がなく、街路樹の適切な樹種選定と管理(苦情に対応した強剪定など)が必要。
- 「観光都市」として、花あふれるまちにするべき。
- 老朽化した公園施設の管理など、子どもが遊ぶ場の充実を。
- 公園の災害時の機能を高める必要がある。

■助かっていること、ためになっていること

- 子供からお年寄りまで多世代の活動の場になる。
- 公園などは子育て世帯に安心をもたらす、小さな子どもを安心して遊ばせる場となっている。
- 人が集う場になり、にぎやかさが、コミュニティ形成の機会になっている。
- 自分の気持ちがうれしくなり、人の心が和み、写真を撮っていて楽しい。
- 札幌のみどりをPRすることが観光振興につながる。
- 都市・まちのみどりが観光につながる。
- 街路樹は健康・心理面に効果を発揮し、楽しめる。
- 公園でのBBQなど、みどりを楽しむことにつながる公園活用を。

■将来像

- 市民だけでなく、外部の人に自慢できる季節を楽しめるみどりがあるまち。
- 身近に触れられ、心を豊かにするみどりがあるまち。

- ・身近なみどりや彩りがきれいな花は、心を癒やし、楽しめる。
- ・季節を楽しめるイベントを開催できるみどりの増やし方を行い、外部の人も見てもらえる場づくりを。
- ・桜を楽しめるみどりづくり、賑わいを生むみどりづくりが必要。
- ・少子高齢化に対応した、狭小公園の見直し、高齢者の公園運営への参加を促す取り組みを。
- ・みどりを増やし、外から札幌に来た人にも良いと思ってもらえる自慢できる都心づくりを。
- ・ビル等の緑化を強化、みどりと共存した街を目指す。
- ・快適な都市空間づくりや歩行環境の改善に向け、マンションとみどりの共存や、自転車走行のマンナ改善が必要。
- ・街路樹を維持するための制度や支援金を確立し、民間の管理参画など、管理が行き届く仕組みづくりを。

■大切だと考える新たな価値

- 市民もともに管理できる体制づくりが必要。
- 小さな公園を活用することで、地域の人活用できる場やコミュニティ形成の場となる。
- 心を豊かにするみどり。
- 自分の気持ちが嬉しくなり人の心が和む。
- 都市・まちのみどりが観光に。
- 街路樹は心理面に効果を発揮
- 癒し、楽しめる。

ウ みどりを楽しむひと

- ブ
ラ
ス
イ
メ
ー
ジ
- みどりに関わる場や機会（町内会への花苗提供など）がある。
 - 大通公園が子どもたちの遊び場になっている。
 - 公園や河川敷が多世代の活動の場になっている。
 - 原生林や植物のある空間が健康づくりの場になっている。
 - 大通公園のピアガーデンやフラワーカーペットなど、みどりに関連するイベントや季節に応じたイベントがあり、イベントが良い印象を与えている。
 - 近隣住民による、サイクリングロードの手入れがみどりとみどり、人と人をつないでいる。
 - 子どもの頃のみどりに関わる場が、大人になってもみどりに触れ合う意識形成につながっている。
 - 子どもや高齢者が一緒にみどりを楽しめる場と、そのために大事な取り組みをすべきである。
 - 今回のような、市民を巻き込んだ取り組み、市民が考え意見交換する場があることが良い。

- マ
イ
ナ
ス
イ
メ
ー
ジ
- みどりを楽しむ場やボランティアに参加する機会が少ない。
 - 情報告知は十分ではないため、もっと拡大して理解が深まると良い。
 - ボランティア情報のポータルサイト等、個人的にみどりを増やすきっかけとなる情報があると良い。
 - 様々な人の協力や支援、活動する人によって支えられていることがもっと知られると良い。
 - 学校以外でのボランティア活動への参加の仕方がわからない。企業単位で活動してはどうか。
 - 小学校の教育で自然を育む心の教育が不足。
 - 関心の低い人が参加したいと思うメリットの創造と、多様な世代の参加を促す場づくりを。
 - 多くの人々が活動できるサポートが必要。
 - 多様な立場に合わせた参加の仕組みと方法を。

■助かっていること、ためになっていること

- 山菜等は食につながり、自給自足の生活が可能に。
- みどりを楽しむことが没頭できる時間、趣味となる。
- みどりを楽しむことは、心を整え、やすらぎとなり、健康になり、人の心を和ませている。
- 河川沿いの緑地などは、市民の憩いの場、集いの場になっている。
- みどりを楽しむことは、子どもの気づきにつながり、教育の場になる。
- 小さい頃からみどりに関わることで大人になってもつながっていく。
- 区ごとに植えている花の種類が違っていることが楽しむ機会になる。

■将来像

- みどりをきっかけに、人と人の交流が身近にあるまち。
- 札幌のみどりを知り、伝え、守り、引き継ぐまち。

- ・学校など様々な組織と連携したボランティア活動（成果が見えやすい）や、他業種との情報共有（関係企業、連携先）が大事になる。
- ・公共機関や企業とで、まちが目指す大きなビジョンを描くことが大事ではないか。
- ・市民がみどりの現状を知ることが大切（園芸種、野草、在来種、外来種など）。
- ・心身の健康のため魅力的なボランティア活動をする。
- ・植物が育つ環境、育てる環境が人を育む。
- ・多様な楽しみ方が浸透し、交流、コミュニティができています。
- ・花植えと婚活イベントの組み合わせ、小さい頃から土に親しむ親子イベント、初心者向けのガーデニング講座などの充実を。
- ・高齢化の進展を考え、介護する人、される人も家の中やベランダでも楽しめる知恵情報があると良い。
- ・参加しやすいイベント企画など、効果的な情報発信がされている。
- ・SNSなど新しい（かつターゲットを決めた）宣伝を行う。

■大切だと考える新たな価値

- 心身ともに健康で豊かに暮らせる。
- 安全・安心して住むことができる環境になる。
- まちなかで身近な交流、コミュニティづくりができる。
- 心身の健康のためのボランティア活

5 市民グリーンフォーラム

①市民グリーンフォーラムの概要

市民グリーンフォーラムは、「第4次札幌市みどりの基本計画」の中間答申を広く市民に周知してご意見をいただくとともに、今後、札幌のみどりをどのように活かして都市の魅力を高めていくかを考える機会として開催しました。

【開催概要】

日 時：平成31年4月20日（土）10：00～16：00
 場 所：札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場（西）
 対 象：市民
 内 容：パネル展示、グリーンカフェ、トークセッション
 主 催：札幌市
 広 報：札幌市HP、関係団体、関連施設等へのチラシ配布・ML

■来場者数

内容	人数
パネル閲覧	130人
グリーンカフェ	110人
トークセッション	190人
内訳 着席	60人
立ち止まり	130人
アンケート	117人

市民グリーンフォーラムの実施内容は以下の通りです。

■パネル展示

第4次札幌市みどりの基本計画 中間答申についての概要、検討の経過や今後の予定などについて札幌の魅力のみどり写真を交えて紹介した。

都市緑化機構様のお知らせ、NTT都市開発様の事例について紹介した。



■グリーンカフェ

第4次札幌市みどりの基本計画 中間答申について、市民の皆さんにご意見を伺った。



■トークセッション

テーマ：「札幌都心の魅力向上に向けたみどりの作り方・活かし方・高め方」

・コーディネーター

愛甲 哲也 氏

（北海道大学大学院農学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会会長）

・登壇者

菊池 佐智子 氏

（公益財団法人都市緑化機構 企画調査部 副主任研究員）

駒井 厚生 氏

（エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 開発本部 副本部長）

小篠 隆生 氏

（北海道大学大学院工学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会委員）

内川 亜紀 氏

（札幌駅前通まちづくり株式会社）



②市民グリーンフォーラムの結果

ア グリーンカフェ

みどりの基本計画・中間答申案を広く知っていただくとともに、「基本理念」「みどりの将来像」に対する意見、「4つの重視すべき視点」をとっかかりとした取り組んでほしいことについて、市民目線での意見をいただくスペースとして設置しました。

当日は、直接市民と対話しご理解いただいた上で、「4つの重視すべき視点」のうち共感するものへのシール投票を行い、ご意見を頂きました。

■取り組んでほしいこと

▶視点① 人と自然の共生（得票数：17）

- ・長期的な視点をもった取組をしてほしい。
- ・人と自然の共生に向けた環境教育などの意識の醸成をしてほしい。

▶視点② 都市の魅力の向上（得票数：19）

- ・街中のみどりを増加してほしい。
- ・市民や企業との連携による維持管理をしてほしい。

▶視点③ 資源の有効活用（得票数：17）

- ・公園や樹木など既存のみどりを活用した魅力向上に取り組んでほしい。
- ・防災機能のあるみどり

▶視点④ 地域コミュニティの醸成（得票数：17）

- ・地域コミュニティの醸成に向けたみどりの活用があるとよい。
- ・みどりを介した地域コミュニティを育む場がほしい。

■基本理念、みどりの将来像について

▶基本理念・・・概ね同意を得られた

- ・SDGsに取り組んでいてよい。
- ・誰でも明るく過ごせるまちを目指す。
- ・わかりやすい。

▶将来像・・・それぞれの将来像について、概ね同意を得られた

- ・ひととの繋がりが大切だ。
- ・暮らして楽しい、みどりあふれるまち。
- ・公園にゴミを捨てる人を教育していかないといけない。
- ・子どもたちに地球環境保全についての教育をしてほしい。

▶その他の意見・・・具体的な取組のイメージについて、意見が出された。

○自然

- ・植える種類のバランスを考えてほしい。（サクラなど）
- ・公園の緑化に力を入れてはどうか。草花がなく樹木のための箇所が多い。
- ・生物が活発な公園が増えると良い。
- ・花の名前がわからないので、名札をつけてほしい。

○都市

- ・避難場所になるような緑地があると良い。
- ・手入れしてる人がいてキレイな町になっている。

イ トークセッション

「札幌都心の魅力向上にむけたみどりのつくり方・活かし方・高め方」をテーマに、有識者、実践者、コーディネーターの5名によるトークセッションを行い、これからの札幌都心部のみどりのあり方を考える場としました。

■中間答申のポイントについて

<札幌市建設局みどりの推進部 仁宮課長>

- ・現在札幌市で策定中の第4次札幌市緑の基本計画中間答申について紹介
- ・「都心のみどりづくり」の現状と課題について、紹介

■話題提供

<北海道大学工学研究院 小篠氏>

○パブリックスペースを都心の中はどう創り出していくか

- ・以前の駅前通には、1、2階部分に連続性、統一性があった。
- ・1、2階部分が賑わいを生む重要な部分となる。
- ・民間施設と一体的な空間としてのオープンスペース整備が重要。



○場所への新たな価値づけをどのように行うか

- ・大学私有地や高架廃線跡、民有地・公有地の境界部分などを活用したパブリックスペースが創出されている事例がある。
- ・これらのパブリックスペースでは、周辺エリアも含めて賑わいが創出されている。



○都心に埋め込まれた居場所がどのように展開しているか

- ・ポートランドやニューヨークでは、都市の中にみどりのオープンスペースを点在させ、さまざまな活用される空間を、多世代に提供している。



○札幌都心部における「きっかけ」の可能性

- ・表通りだけでなく、中通りにもみどりを展開することができる。
- ・札幌市においても、行政だけでなく、事業者や利用者と一緒にみどりの質の向上に取り組んでいく必要がある。



<公益財団法人都市緑化機構 菊池氏>

○都市の緑3表彰、SEGES（シージェス：みどりの認定制度）について

- ・屋上などを緑化し、立ち入ることのできる癒しや安らぎの場などを提供することで、商業施設としての盛り上がりにつながっている。
- ・都市の緑3表彰では、みどり豊かなまちづくりに関する「実績」「計画」「技術」の優れた取り組みを表彰している。SEGESでは、社会・環境に貢献する企業緑地の取組を総合的に評価、認定している。
- ・表彰制度によって、企業が取り組みやすくなるとともに、動機付けにつながっている。



<エヌ・ティ・ティ・都市開発株式会社 駒井氏>

○事例の紹介

- 品川シーズンテラスや大手町ファーストスクエアでは、日常的な憩いや遊びの場となるだけでなく、イベント開催などを行い、にぎわいを創出している。
- イベントなどの収益をもとに、維持管理を行う稼働パークマネジメントを実践している。



○開発手法・プロセスについて

- ビルオーナーや、テナント、地域住民、近隣ビルなど、様々な立場の人によるワークショップで、ビジョンの構築・共有を図り、計画をつくるのが重要。



<札幌駅前通りまちづくり株式会社 内川氏>

○公共空間（アカプラ・駅前通）での取組について

- まちなかのオープンスペースを活用し、季節に合わせた活用、賑わいづくりに企業等と連携し取り組んでいる。

○民間企業の取組

- 民間企業によるみどりに関する取組が展開されている。
- 民間と公共の境界線を越えたまちづくりに向けて、調整等を行い、まちづくりのガイドライン化を検討している。



■ディスカッション

○多様な人が関わる中での円滑な進め方について

- 取組を続けることで、活動が活発になっていく。
- 札幌都心においても、みどりによる価値づけが民間事業者を意識されるとよい。

○民間事業者がパブリックスペースに関わる際のモチベーションについて

- これまでみどりは、付加価値のためであったが、今はオープンスペースそのものの価値が認められてきている。
- エリアマネジメント的な考えで、地域住民などと協調していく必要がある。

○企業など様々な人たちの協力による管理について

- 自分ごととして捉えることが大事。
- 小さな取組の積み上げによって続けていくことが必要。

○札幌都心のみどりづくりについて、ヒントやアドバイスについて

- 菊地氏：①ビジネス競争力の向上、②集客力の発揮、③企業や組織の評判の向上④労働意欲・学習意欲・創造力への刺激、⑤特徴ある施設づくり、⑥ランニングコストの節約、⑦暮らしやすさ、居心地の良さがうまれる、のどれかに着目し取り組むと良い。
- 駒井氏：誰でもそこで何かをできるようなみどりが有機的につながるとよい。
- 内川氏：潜在的にみどりに関わりたい人は実はいる。自分ごとの積み重ねがまちに広がっていくとよい。
- 小篠氏：事業に対して利益になるような仕組みづくりが大事。中通りなどに小さなみどりがあると、魅力的なまちに生まれ変わる。

■まとめ

○民間の緑化事業に対して利益になるような仕組みづくりが重要。

○建物のみどりは付加価値ではなく、みどりそのものに価値がある。

○中通りなども含めて、誰もが使えるみどりが有機的につながることで、魅力的なまちに生まれ変わる。

